

# なからぎ

196号

2011年10月



イメージ図

## 動き出した新図書館建設計画

基本・実施設計の業者決まる

— 平成27年春 完成予定 —

## 追憶の反芻

図書館運営委員 山崎 福之

昨年秋、親しい友を亡くした。— 奥さんからの留守電があった。たどたどしく彼の死を告げることば。「えっ?」と思った時、彼との出会いから、三ヶ月前結果的に最後の会話となった時の言葉までが、一瞬にして脳裏に渦巻いた。それは40年間にもわたる長い時間の記憶。日常の思念の陰に隠れていた、古く懐かしい追憶の世界だった。そこには現実の時間は流れていない。「彼が死んだ?ん?」。脳裏には追憶ばかりが渦巻きながら、今自分が何を考えているのかわからない、今何を聞いたのかに確信が持てない、そんな空白の時間だった。

どれほど時間が経ったのか、ふと気がついた。今何をしていたのか……。ああ留守電だ、そうだ彼のことだった、と。もう一度聞いてみる。同じ訃報だった。渦巻いていた追憶が現実の死に辿り着いてしまった。追憶の続きはもうない。彼の追憶はもう作れない、それが喩えようもない悲しみとなって、私の思念を凍らせた—。

追憶ということばを覚えたのは、中学の時。北杜夫の『幽霊』の冒頭の一節だった。

人はなぜ追憶を語るのだろうか。どの民族にも神話があるように、どの個人にも心の神話があるものだ。その神話は次第にうすれ、やがて時間の深みの中に姿を失うように見える。だが、あのおぼろな昔に人の心に忍び込み、そっと爪痕を残していった事柄を、人は知らず知らず、来る年も来る年も反芻しつつづけているものらしい。そうした所作は死ぬまでいつまでも続いてゆくことだろう。それにし

ても、人はそんな反芻をまったく無意識につづけながら、なぜかふっと目ざめることがある。わけもなく桑の葉に穴をあけている蚕が、自分の咀嚼するかすかな音に気づいて、不安げに首をもたげてみるようなものだ。そんなとき、蚕はどんな気持ちがするのだろうか。

これはそれまでに読んだどの小説にもないことばの連なりだった。そもそもこの本を手にとったのは、題名がちょっと変わっていたこともあり、それまでに読んだ、北杜夫の『どくとるマンボウ航海記』や『どくとるマンボウ昆虫記』が面白くて、これも同じようなものかなという軽い気持ちからだった。そんな気持ちはこの一節で完全に挫かれた。「この本は何だろう?」という怪訝な気持ち、そして不確かさと同時にもたらされる不思議な安心感。吸い込まれるように、その追憶の世界に入っていった。「追憶の反芻」。それがこの小説のテーマだった。いつも冒頭の一節が繰り返し繰り返し問い掛けられていた。

少年期という時期は、もともと世の中に怪訝な思いを抱き、不確かさと安心感の間で揺れているもの。それがそのまま描かれている。そんな小説は他にもあるかもしれない。だがこの小説では、その追憶の多くが、一種の「けだるさ」を帯びていた。「何だったかなあ……。いつだったかしらん……。」という莫とした、しかし確かに何かあるという思い。それをたどろうか、たどるまいか、しばし茫然とするような感覚。健康的とは言えないが、決して不健康でもない。能動的ではないが、受動的でもない。そうした不可思議な色合い

の魅力に覆われていた。読み終えて、やはり、冒頭の一節がこの小説世界のすべてを言い表していると悟った。いつの間にか、その一節を暗誦していた。通学の電車の中で、通り過ぎる景色を眺めながら、駅から学校までの道を歩きながら、放課後の図書室で窓の外を見つめながら、何度も呟いていたこともある。

何度も読み返した後で、新潮文庫本に付いていた奥野健男の解説を読んだ。奥野もその冒頭の一節の魅力に惹かれていた。奥野の説く一つ一つのことばに共感した。そこから私の本当の北杜夫読みが始まった。芥川賞受賞作でナチスの軍医の苦悩を描いた『夜と霧の隅で』は人間の存在の意味を問い掛けるテーマが重く、苦しみながらページを繰った。ユーモアだけと思っていたマンボウのものも、読み返すとまったく違った面白さが見えるような気がした。『昆虫記』の微妙な繊細さの中身が少しわかりかけた気もした。ただ新潮文庫の作品を皆読もうとしたのだが、『榆家の人々』だけがどうしても見つからなかった。家の近所だけでなく、学校や友人宅近くの本屋を探し回ったが、なぜかそれがなかった。図書室にはあったのだが……。自分の本にしたくて見ようとも借りようとしなかった。本屋に頼んで取り寄せてもらえることも知らず、本に詳しい父に相談することもせず、自分で見つけるんだ、という気持ちを膨らませていった。

中学三年の秋、一人で飛鳥に出かけた帰り、梅田の大きな本屋に立ち寄った。真っ先に文庫本のコーナーを探した。——なかった。ここもだめか、とがっかりして、何気なく文芸書の並ぶ書棚の前を通った。ふいに「榆」という活字が見えた。えっ、と思う間もなく「家、の、人々」の文字。そして「北杜夫」。あった、あったあった……。でも、どうして

こんなところに……。それはがっしりとした箱に入った重い単行本だった。文庫本しかないと思いきや勝手に思い込んでいたのだから、しばし呆然と背表紙を見つめた。手に取ってみた。びっしりと並ぶ小さな活字。これだ、これを読もう。でも文庫本なら上下二冊で400円のはずが、それは確か、1000円ほどした。その頃の小遣いでは、相当高かったはずだし、財布の中身もあまり余裕がなかったと思う。ただ、それがどうしても欲しくてたまらず、書棚に戻せなかった。箱には三島由紀夫の絶賛の評も記されていた。

『榆家の人々』も、描かれているのは追憶の世界である。人の心の有様を、精神分析学という科学の手法ではなく、文学の手法で見せてくれた作品として、理解している。そこに描かれた人間像の一つ一つは、追憶の世界の中でおぼろげでありながらも、却って鮮やかに切り取られている。北杜夫が、20世紀前半を代表する歌人であり精神医学者でもあった斎藤茂吉の次男宗吉であることは、後に知った。兄の茂太も精神医学者で、彼自身も自ら認める患者の一人であることも。こんな文学もあるのだ。追憶を手がかりに、本当に人の心に忍び込む作品が書けるのだと思った。

友の死をきっかけに、追憶の世界を彷徨した。その頃に読んだ本から受けた感動もまた、追憶の大きな渦の中に蘇ってきた。私の追憶と繋がっているその箱入りの本は、今でも『萬葉集云々』などという、しかつめらしい顔をした本が居並ぶ狭苦しい書棚の隅に、ひっそりと佇んでいる。この原稿を書きながら、時折そこに目を向けた。だが手に取るのが怖いような気がして、まだ触ってもいない。

(やまざき よしゆき

: 文学部日本・中国文学科教授)

御紹介の「幽霊 或る幼年と青春の物語」新潮社1975.6刊 (請求番号 913.6 || K)、「どくとるマンボウ航海記」新潮文庫1987.12刊 (請求番号 913.6 || K)、「どくとるマンボウ昆虫記」中央公論社1961刊 (請求番号 486 || K)、「夜と霧の隅で」新潮文庫1988.3刊 (請求番号 913.6 || K)、「榆家の人びと」新潮文庫1994.2\_95.1刊 (請求番号 913.6 || K || 1, 2) は、2階閲覧室入口の新着図書コーナーに配架していますので、御利用ください。

## 2010年度の利用者サービスをふりかえって

### 図書の貸出 22,200冊

(昨年度 20,964冊)

#### 学部生・院生貸出 20,535冊

(昨年度 19,323冊)

過去最高だった2008年度にはあと少し及びませんでした。学生の年間貸出冊数が2万冊を超えました。

学生一人当たり9.71冊借りたことになります。ちなみに、公立大学生一人当たりの全国平均は11～12冊の間を推移しています。

### 雑誌の一時持出し 486冊

(昨年度 500冊)

雑誌の貸出はできませんが、コピーのための一時持出しは可能です。2階カウンターで手続きをお願いします。

なお、コピー終了後すぐに返却をお願いします。

### 館内資料の複写 1,776件

(昨年度 1,446件)

#### コピー枚数 16,841枚

(昨年度 11,298枚)

図書館所蔵の図書・雑誌をコピーされた件数・枚数です。昨年よりかなり増加しています。蔵書が充実して、レポートや課題に使える資料が増加した結果でしょうか。

### 論文の取寄せ 1,668件

(昨年度 1,809件)

### 図書の取寄せ 113冊

(昨年度 102冊)

マイライブラリから論文・図書の取寄せ依頼される際、府大 OPAC を検索せずに依頼をされる方が増加しています。また、電子ジャーナルや GeNii 等で全文見ることができるとに依頼されるケースも多いです。

初めて依頼される方は、まず一度図書館に足を運んで取寄せや検索について職員にお尋ねください。それから依頼されるのが近道だと思います。

依頼について確認や照会のメールを送信する場合があります。確実に届くメールアドレスをマイライブラリに登録しておいてください。

### 学生希望図書購入 218冊

(昨年度 205冊)

リクエストされる人が増え、すっかり制度として定着しました。

### 貸出中図書への予約 226件

(昨年度 157件)

パスワードを事前登録されると、検索結果から貸出中の図書へ予約がかけられます。取置き期間は1週間です。図書館からの連絡が円滑にできるようマイライブラリからメール登録をお願いします。

図書館HPからアクセスする

# 使える!! マイライブラリ

**学生証を持って**  
図書館カウンターで  
パスワードを登録

**翌日から利用可能**  
17:00以降の登録は翌日以降

**予約**  
貸出中なら、予約ボタンをクリック!

**延長**  
本を図書館まで持参する必要なし。チェックを入れて、延長ボタンをクリック!  
返却期限内、1回のみ。

**学内にない資料の取寄依頼**  
・図書館に来なくても、インターネットが利用できればいつでもどこからでも申込OK!

**お知らせや確認**  
・借りている本の返却期限や取寄資料の到着状況などを確認!

**マイフォルダ**  
・資料の検索結果を保存!

登録した? パスワードを忘れた? 方は、学生証を持って、カウンターで、9:00~17:00の間に  
おたずねください。

**注意!**  
毎深夜数時間、システム夜間処理のため、利用できない時間帯があります。

**どちらかをクリック**

京都府立大学附属図書館  
Kyoto Prefectural University Library

ログイン

入力  
利用者のID: \_\_\_\_\_  
パスワード: \_\_\_\_\_  
ログイン キャンセル

マイライブラリ

お知らせ  
お知らせがありません。

著者情報  
条件が設定されていません。

入手待ちの資料  
入手待ちの資料はありません。

借用中の資料  
2件の資料を借っています。 >>> 詳細を見る

マイフォルダ  
登録されているフォルダはありません。フォルダへの資料の登録はブックマーク機能から行えます。

マイフォルダ管理

操作メニュー  
印刷  
文庫の検索  
資料の借用  
設定変更  
パスワード  
メールアドレス

連絡用のメールアドレスの登録をお願いします。

## ご注意ください!

- 図書館パスワードと間違いやすいものがあります。  
【入学時に配布された学生アカウント】… 情報処理室のPCを利用する際に使います。図書館のマイライブラリにはログインできません。
- 図書館パスワードでは利用できません。  
【電子ジャーナルの学外アクセス】… 図書館カウンターで利用の申込 (EBSCO host / SpringerLink のみ)をお願いします。  
( )内以外の電子ジャーナル等は、学外からは利用できません。

# 図書館日誌

平成23年度第1回の附属図書館運営委員会が5月27日(金)に本館第1会議室で開催されました。

最初に「自己評価・あり方検討」、「選書」、「電子ジャーナル」の3つのワーキンググループ(WG)のメンバーを決定しました。

次に、図書館の大きな課題である、「新図書館の建設」及び「電子ジャーナル」について協議しました。

まず、「新図書館の建設」については、今年度、基本・実施設計業者がコンペ方式により秋頃に決定される予定であり、整備が具体化しつつある。このため、今後、施設の具体的な内容、新規購入図書、研究所蔵図書の取扱いや移転作業準備等などの多くの課題について「自己評価・あり方検討」及び「選書」のワーキンググループで検討し、運営委員会で図書館としての意見を取りまとめ、大学当局に要望していくことが確認されました。

また、「電子ジャーナル」も、教育・研究の基礎基盤として重要であり、より効果的な導入を継続するためには、安定的な予算の確保とともに予算の増額が不可欠であり、ワーキンググループで方向性について検討し、運営委員会で図書館としての意見を取りまとめ、大学当局に要望していくことが確認されました。

今後とも、よりよい図書館として管理運営に努力していきますので、皆さんの御協力をよろしくお願いします。

## 図書館運営委員会

所属	職名	委員氏名	所属WG名
附属図書館	館長 (生命環境科学研究科教授)	牛田一成	
文学部	教授	山崎福之	自己評価・あり方検討
	教授	菅山謙正	選書
	准教授	上島亨	電子ジャーナル
公共政策学部	教授	大島和夫	自己評価・あり方検討
	講師	竹部晴美	電子ジャーナル
	教授	津崎哲雄	選書
生命環境科学研究科	准教授	沼田宗典	選書
	准教授	佐伯徹	電子ジャーナル
	教授	大谷貴美子	自己評価・あり方検討
	教授	吉富康成	電子ジャーナル
	教授	尾崎明仁	自己評価・あり方検討
	教授	松村和樹	選書
附属図書館	事務長	西川昌良	
	専門幹	久保直弘	

### カレンダー

#### 11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

11/11(金)  
関西六公立総合競技大会で  
全学休講のため17時閉館

#### 12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

12/9(金)~  
冬休み長期貸出開始 返却期限 1/17(火)

12/26(月)・27(火)、1/5(木)・6(金)  
冬期休業のため17時閉館

12/28(水)~1/4(水)  
年末年始休館

□ 9:00-21:00  
 ▤ 9:00-17:00  
 ■ 休館

閉館時の図書の返却は、図書館西側の返却ポストをご利用ください。